

中小企業者等が機械等を取得した場合の法人税額の特別控除に関する明細書

事業年度	・	・	法人名	
	・	・		

別表六十一
平二十一年・四・一以後開始事業年度分

御注意

1 資本金の額又は出資金の額が一億円以下の法人でその発行済株式又は出資の総数又は総額の一定割合以上を大規模法人に所有されている法人については、この制度の適用がありませんので、御注意ください。
2 (裏面の「中小企業者の判定」欄に記載して判定してください。)
3 取得に係る法人税額の特別控除は、資本金の額又は出資金の額が三千万円を超える法人(農業協同組合等を除きます。)は適用がありませんので、御注意ください。
平成21年3月31日以前に開始する事業年度については、平成21年6月改正前の法人税法施行規則別表六十一(旧別表六十一)を御使用ください。

措法第42条の6第1項各号の該当号	1	第 号	第 号	第 号	第 号	第 号	
事業種目	2						
資産区分	種類	3					
	機械装置等の名称	4					
取得価額	取得年月日	5	平・	平・	平・	平・	
	指定事業の用に供した年月日	6	平・	平・	平・	平・	
取得価額	取得価額又は製作価額	7	円	円	円	円	
	法人税法上の圧縮記帳による積立金計上額	8					
	差引改定取得価額 (7)-(8)又は((7)-(8)× $\frac{75}{100}$)	9					
法人税額の特別控除額の計算							
当期分	取得価額の合計額 (9)の合計	10	円	繰越	差引当期税額基準額残額 (13)-(14)	17	円
	税額控除限度額 (10)× $\frac{7}{100}$	11			繰越税額控除限度超過額 (23)の計	18	
	当期の所得に対する法人税の額 (別表一(一)「2」、別表一(二)「2」 又は別表一(三)「2」)	12			同上のうち当期繰越税額控除可能額 (17)と(18)のうち少ない金額	19	
	当期税額基準額 (12)× $\frac{20}{100}$	13			法人税額超過構成額 (別表六(二十四)「36の②」)	20	
	当期税額控除可能額 (11)と(13)のうち少ない金額	14			当期繰越税額控除額 (19)-(20)	21	
	法人税額超過構成額 (別表六(二十四)「37の②」)	15			法人税額の特別控除額 (16)+(21)	22	
	当期分の特別控除額 (14)-(15)	16					
翌期繰越税額控除限度超過額の計算							
事業年度又は連結事業年度	前期繰越額又は 当期税額控除限度額	当期控除可能額等	翌期繰越額 (23)-(24)				
	23	24	25				
平・	円	円					
平・		外	外	円			
平・		(19)					
計	(11)	(14)	外				
当期分							
合計							
機械装置等の概要							

別表六（十一）の記載の仕方

1 この明細書は、青色申告書を提出する特定中小企業者等又は中小企業者等が措置法第42条の6第2項又は第3項《中小企業者等が機械等を取得した場合の法人税額の特別控除》の規定の適用を受ける場合に記載します。

なお、次に掲げる事業年度において、法人税額がないためその後の事業年度に繰り越して税額控除の適用を受けようとする場合にも、この明細書を提出しなければなりませんので、御注意ください。

- (1) 特定機械装置等を事業の用に供した事業年度（供用年度）
- (2) 供用年度後の繰越税額控除限度超過額がある事業年度

2 「種類3」及び「機械装置等の名称4」には、特定機械装置等の耐用年数省令別表第一から別表第三までに定める種類及び設備の名称を記載します。

3 「法人税法上の圧縮記帳による積立金計上額8」には、法第42条から第49条まで《圧縮記帳》の規定の適用を受ける場合において、圧縮記帳による圧縮額を積立金として積み立てる方法により経理したときに、その積み立てた金額（積立限度超過額を除きます。）を記載します。

4 「差引改定取得価額9は、措置法(7)-(8)又は $((7)-(8)) \times \frac{75}{100}$ 」

第42条の6第1項第4号に掲げる減価償却資産にあっては、 $((7)-(8)) \times \frac{75}{100}$ を適用して計算した金額を、同項第1号から第3号までに掲げる減価償却資産にあっては $((7)-(8))$ を適用して計算した金額を記載します。

5 「前期繰越分」の「17~21」の各欄は、前期以前において生じた特定機械装置等に係る繰越税額控除限度超過額を有する場合に、措置法第42条の6第3項の規定により当該超過額について当期において法人税額の特別控除の規定の適用を受けるときに記載します。

6 当期に、特定機械装置等で事業の用に供したものがなく、前期以前から繰り越された繰越税額控除限度超過額につき、法人税額の特別控除を受ける場合には、「当期の所得に対する法人税の額12」から記載を始めます。

7 「前期繰越額又は当期税額控除限度額23」の「計」は、前事業年度分のこの明細書の「翌期繰越額25」の金額を移記し、「当期分」には「11」の金額を記載します。

8 「当該控除可能額等24」の外書には、措置法令第27条の6第8項《連結納税の承認を取り消された場合に繰越税額控除限度超過額から控除する金額》の規定の適用を受ける場合に、同項に規定する控除未済超過額を記載します。この場合、翌期繰越額の計算は、当該控除未済超過額を含めて計算します。

9 「翌期繰越額25」の各欄の外書には、措置法第42条の12《法人税の額から控除される特別控除額の特例》の規定の適用を受ける場合に、別表六(二十四)の「法人税額超過構成額②」の各欄の金額を記載します。この場合において、「計」及び「合計」の欄の記載に当たっては、当該金額を含めて計算します。

10 「機械装置等の概要」には、減価償却資産が特定機械装置等に該当することの詳細を記載します。

中 小 企 業 者 の 判 定							
発行済株式又は出資の総数又は総額		a		大規模法人の明細有する	順位	大規模法人名	株式数又は出資金の額
常時使用する従業員の数		b			1	g	
大規模法人の保有割合の株式	第1順位の株式数又は出資金の額	c				h	
	保有割合	$\frac{c}{a}$	d			i	
	大規模法人合計の株式数又は出資金の額	e				j	
保有割合		$\frac{e}{a}$	f		計	k	
					$(g) + (h) + (i) + (j)$		

この表の各欄は、その特定機械装置等を事業の用に供した日の現況により記載するほか、次によります。

1 「保有割合d」が50%以上となる場合又は「保有割合f」が3分の2（66.666…%）以上となる場合には、この法人税額の特別控除の規定の適用はありませんから注意してください。

2 「大規模法人の保有する株式数等の明細g～k」の各欄は、その法人の株主等のうち大規模法人（資本金の額若しくは出資金の額が1億円を超える法人又は資本若しくは出資を有しない法人のうち常時使用する従業員の数が千人を超える法人をいい、中小企業投資育成株式会社を除きます。）について、その所有する株式数又は出資金の額の最も多いものから順次記載します。